

企業誘致の促進に国が支援

南あわじ市企業立地基本計画を策定



▲甘利経済産業大臣（右）と握手を交わす中田市長

南あわじ市では、企業誘致を重点施策として積極的に取り組んでいるなかで、国が昨年6月に地方への企業誘致を促進する「企業立地促進法」（略称）を施行。国からの支援を受けられることから「南あわじ市企業立地基本計画」を策定しました。

基本計画の策定にあたっては、兵庫県と市、南あわじ市商工会が共同して「地域産業活性化協議会」を設立。内容を協議、検討しました。

3月25日には、経済産業大臣室で市の基本計画に対しての同意書（4省庁で同意）の交付式がありました。

この同意により、県と市、立地する企業が国の支援措置を受けることができ、さらに市内の企業誘致、企業立地が促進されることになります。（ふれあい市長室に関連記事）詳しくは、南あわじ市ホームページに掲載しています。

■企業誘致課 ☎ 37・3046

阿万バイパス全線開通

地域住民が参加して祝う

このほど県が進めていた主要地方道洲本灘賀集線阿万バイパス（全長約7・8km）の最後の施工区間 全長約2・3kmが完成し、全線開通しました。

阿万東町から国道28号線のある国衙までの同線区間は、道幅が狭く、沿線沿いに人家が多いため、交通渋滞・交通事故が多発していました。これを解消するため、平成6年度から5区間に分けて工事を進めていました。

3月26日に行われた開通式には、工事関係者や地元住民約200人が参加。式典の後、テープカットとくす球割り。また記念行事として阿万小学校児童による鼓笛やフロッグ隊、同保育所園児のだんじり唄やキッズソーラン、中西塩屋両地区の檀尻練りをして盛大に祝いました。

今後は大型車両を含む自動車が行きやすくなり、地域の発展や交通事故の減少に役立てられることでしょう。



▲完成を祝い、だんじり唄を披露する阿万保育所園児

ふれあい市長室

企業誘致を積極的に推進しています

南あわじ市長 中田勝久

先般、経済産業省において、

企業立地促進法に基づく地域産業活性化計画（基本計画）の申請に対し同意書交付式があり、甘利大臣より直接交付していただきました。この法律は少子対策や地域活性化の最重要課題である企業誘致対策に国からの支援措置があるもので、課税免除に対する減取補てん、特別交付税及び工場立地法の特例、産業立地支援事業の補助、企業としては、設備投資減税（特別償却機械が15%、建物8%）、人材育成のための研修費用等の補助制度です。

経済産業大臣だけでなく、財務大臣、農林水産大臣、国土交通大臣の4名連記による承認をいただき、省庁間の垣根を越えた横断的対策の一つとして実施されます。

淡路島は急激な人口減少社会に入り、この5年間で7千7百20人が減少しました。また、1年間の総生産額もここ5年前より約1千億円減少して4千億円となっております。

南あわじ市は働く場の確保のため政策的に4月より企業誘致課を設置し、積極的に推進してまいります。市民の皆さまも色々な情報がございましたらご一報をお願いいたします。

併せて、国は地方再生戦略の一環として、農工商連携による地域産業の活性化を打ち出しております。地域特産品の独自性を発揮し、生産・加工・流通・販売を視野に入れた起業化。宿泊施設・レストラン・土産店などと連携した特徴ある農林水産物の販売促進。集客施設や自然景観などと面的連携を図った戦略的な交流人口の増加対策など、市民の力によって地域の活力を引き出すための誘発対策が提案されております。

市民の皆様とともに夢・知恵・元氣を出し合い、南あわじ市が丸となり、地域活性化のために一層のご尽力をいただきますようお願いいたします。

ケーブルテレビが広域化・高度化

整備工事の竣工式を行う



▲くす玉を割って完成を祝う関係者

旧西淡町と旧三原町で整備されていたケーブルテレビを、緑・南淡地域へ広域化し、併せて、地上デジタル放送対応やブロードバンドインターネット等を可能とする高度情報社会へ対応する整備工事が3月に完成しました。総事業費47億円。

この整備は、南あわじ市が誕生した平成17年1月から始まり、沼島への海底光ファイバーケーブルを含め、市内全域で光ファイバーを敷設。また、

ケーブル網を活用した屋外サイレンやスピーカー、防災監視カメラ等を設置しました。

3月29日、ケーブルネットワーク淡路局舎前で竣工式が行われ、中田市長は「身近な情報環境が整いました。市民の交流やまらの活性化、安全安心に役立つよう活用していきたい」と話しました。この後、防災サイレンの一斉吹鳴や、また開局までの整備工事の歩みをまとめた記念番組が放送されました。

消火活動の協力者へ感謝状を贈呈

堀社長は「消火活動に協力するのは当然のこと。従業員はよくやりました」と述べられました。

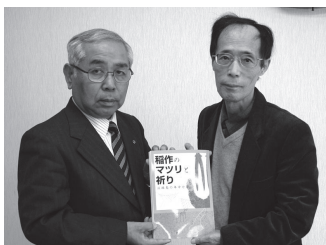


▲感謝状を受け取る堀社長（右）

3月12日の阿那賀伊根林野火災の際、自主的に消火活動に協力された堀建設㈱（堀洋二社長）に、3月28日、真野和典南あわじ市消防団長から、感謝状が贈呈されました。火災発生時、消防団員でもある同社の従業員2人が、付近に水源がないため、機転を利かし、自社の作業用散水車と高圧洗浄車を提供し、遠くのため池から水を約20回もピストン輸送して、林野火災の鎮火に貢献。

永田誠吾さん、郷土史本を寄贈

3月27日、淡路考古学研究所

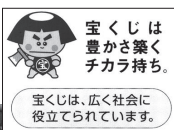


▲塚本教育長に本を手渡す永田さん（右）

会副会長の永田誠吾さん（洲本市）が、市内小中学校24校に図書を各1冊ずつ寄贈したいと申し出があり、塚本教育長に渡されました。

図書は永田さんが自費出版した「稲作のマツリと祈り―淡路島の年中行事―。農業の機械化などで行なわれなくなった島内の米作りになつわる祭りや風習を、永田さんが聞き取り調査して、再現写真とともに紹介しています。

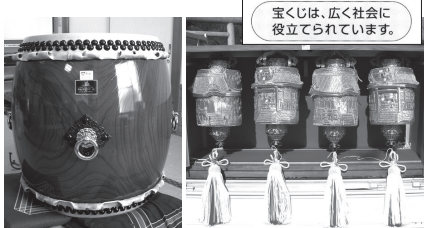
宝くじの収益を活用し、だんじり備品を新調



宝くじの収益を財源とした（財）自治総合センターの19年度コミュニティ助成事業を活用し、このほど賀集生子自治会では、だんじり備品（太鼓、提灯）を新調しました。

山崎自治会長は、「これを機に、地域の歴史・伝統に対する住民意識の高揚と、地域の活性化・住民交流を促していきたい」と話されました。

なお、21年度助成事業は、広報9月号でご案内します。



▲新調された太鼓（左）と提灯